

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	9人の利用者が家庭に近い生活を仲間と送りながら、散歩や週に1度のボランティアの会へ参加するなど地域へ出かける暮らしを支えていくサービスとして「おだやかに ゆっくり ゆっくり」という陽だまりの理念を作っている。	○	陽だまりは、小型車は所有しているが、大きいワゴン車はなく、只今、助成金の申請をしている。所有できれば、出かける機会を多くしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、時には、ミーティング時にケア方法に関連付けて話しをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	陽だまりのパンフレットに掲載したり、玄関に掲示するなど、目にふれる場所に掲示している。また、「陽だまり運営推進会議」等でも、折に触れ伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やゴミ出し等で出かけた時など近所の方と挨拶をしたり、近所で農園を営んでみえる方が定期的に取れた野菜や果物を売りにこられ、それを食材にするなど交流がある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の12月に陽だまり理事長の自宅横に新築移転したので、理事長とお付き合いがある町内の方が気軽に声をかけてくださる。また、移転後、この町内に住み民生委員をやっている方が、職員に加わり、さらに交流しやすくなった。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>昨年度までは、精神障害者の女性1名の就労支援であったが、今年度さらに軽度な知的障害者の女性1名の就労について週に2～3日程度受入を行っている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議を開催する目的の1つには、誰にでも開かれたグループホームとするための一助としていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>虐待は、あってはならない事であり、スタッフ全員で、小さな虐待も見逃さないよう意識合わせをしています。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規程、契約書に沿って順次説明し理解を得るようにしている。また、説明後すぐの契約ではなく一旦書類を持ち帰ってもらい十分理解していただいたうえで契約することとしている。また、説明で分からないところがないか確認している。	○	利用料金等改正が生じた場合は、事前に家族等の承諾書をいただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者が参加された時は、意見や不満、苦情を聞くようにしている。また、職員が日々のケアの折、利用者の思いを聞くように心がけるとともにミーティング等で話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料請求の文書と一緒に、その月の利用者の様子やホーム内での特記事項、職員等の移動事項など知らせている。また個別の健康状態等で気になること等生じた場合は、管理者が電話等で知らせている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この外部評価での家族のアンケートの結果を参考にしたり、運営推進会議に家族や利用者が参加された時、意見や不満、苦情を聞くようにしている。また、面会にみえた時など、応対した職員が聞くようにし、ミーティング等で話し合いをしている。意見箱も玄関に設置し常時受け付けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティングや勉強会、特に重要と思われる時は個別に面談する等、常時意見を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の最も活動される日中は、日勤の職員配置は、法律の配置人員をいつも上回っており、急な事変があっても、十分対応できる勤務状態である。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動や離職があっても利用者の方が不穏や不安にならないように、日中の職員の配置人員を9人の利用者に対して常時4人以上置いているので利用者の方はいつも安心していただける状態である。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には、認知症介護実践研修の受講を順に行なわせているし、関係機関で開催する人材育成等の研修にも積極的に受講させる機会を確保している。また、職員は日々の体験を経過記録や業務日誌に示し職員間で情報を共有し学びあうようにしている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飛騨地区のグループホーム協議会が年に数回開催され、当所でも参加し、情報交換し、そこでの意見や情報をケアに活かすようにしている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昨年12月の移転後は、ホームの空間が以前より狭くなり、利用者との密着度が増し必然的にストレスも増した。よって運営者は、常に職員の疲労やストレスの要因に気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、毎日現場に勤務して利用者と一緒に過ごしている。また、いつも職員の業務を把握している。職員が向上心を持って働けるよう資格取得に向けた支援を行ったり、職員に人材育成等の研修文書を見せ参加の機会を与えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態をよく把握するようにしている。また、いきなり入所するのではなく、しばらく通所で利用してもらい、ご本人と当所がお互いをよく理解してから入所してもらうこととしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の事前面談で、これまでの家族の苦労や今までの本人の経緯を聞くと共に、本人や家族が求めているものを理解するようにしている。また、陽だまりのケア方針を提示し、ここではどのようなサービスが出来るか説明している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思いや状況等をよく確認し、ここでのサービスが本人や家族の求めているサービスに合うのか見極めて対応している。また、当所で対応できない場合は、他の介護事業所や相談機関等の紹介斡旋をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族から入所の相談があった時は、当ホームをよく知ってもらうためにも来所してもらい面談し、ホーム内を見学してもらっている。また、しばらく通所してもらい納得した後、入所するようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	なるべく、支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように心がけている。	

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の来訪時に利用者の様子や職員の思いを伝え、家族からも昔家庭で過ごした様子や性格等を聞き、気づきの情報共有に努め、一緒に支えようという意向を家族に伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、時折陽だまりへ来訪し本人と面会してもらうように勧める等よりよい関係づくりの維持に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人や親戚、ご近所の方等が、気軽に本人に会いに来てもらえるよう雰囲気づくりに心がけている。また、家族には盆や正月、祭り、墓参り等出かける機会を促している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活の中で、職員が利用者に会話をしかけたり、役割活動等を通じて、利用者同士の人間関係が円滑になるように働きかけている。また、利用者同士の関係等について、情報を共有し、すべての職員が心身の状態や気分、感情の日々の変化を注意して見守りをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時には、他の施設等に移られた方へ、仲が良かった利用者が職員と一緒に会いに行ったり、入院中の方へ一緒にお見舞に行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情等からその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得ている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、アセスメントを行い把握に努めている。また、家族にもセンター方式の家族版に記入してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所後に職員がその方と関わる中で、その方の性格や他の利用者と一緒に活動を通じ、本人のしたい事したくない事、出来る事出来ない事を徐々に理解し、その人を総合的に把握するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者ご本人が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望も把握しながら、課題となる事を職員間で話し合い、介護計画の作成に当たっている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、定期的に介護計画の遂行状況や効果等を評価している。また、毎日の休憩時間やミーティング時に随時話題としている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者全員の利用者毎の介護経過記録を身体的状況や暮らしの様子、本人の言葉やエピソード等を記録し、いつでもすべての職員が確認できるようにしている。また、それを見ながら介護計画の見直し等を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう民生委員やボランティア団体、社会福祉協議会や市役所担当課等と協力した支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	年に数回、地元の社会福祉協議会等からの呼びかけにより、その催事に参加させてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当所の運営推進会議に地域包括支援センターの職員にも参加していただき、定期的に情報の交換をしている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	他の施設等へ移られる場合は、サマリ等の支援状 況等を先方へ渡すと共に、情報交換をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	職員は、人前であからさまに介護する等の利用者 のプライバシーを損ねるような行為はしないよう にしている。また、陽だまり独自の個人情報保護 の基本方針を制定すると共に、管理者は保護マ ニュアルにより管理運営している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	お茶の時間等は、個々の利用者の飲みたい物を聞 き、本人が決める場面を持つようにしている。ま た、日中の活動でも、やりたい事を聞き参加し てもらおう等、自分で決めたり納得しながら暮ら せるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとり の体調に配慮しながら、その日、その時の本人 の気持ちを尊重して日々の生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	朝の着替え等身だしなみは、基本的に本人の意志 で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に 手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用 者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに 沿った支援をしている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の来訪時に話したり、定期的な会報等で抑圧感のない自由な暮らしの様子を知らせる等、色々な役割活動や外出でリスクが高くなるものの、力の発揮や抑圧感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしていることをわかってもらうよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、すぐにバイタルチェックを実施し、変化時の記録を付けている。状況により医療機関の受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬管理を徹底するため、各々の薬入れ(カゴ)を用意し、薬の袋には日付や名前、朝・昼・晩等と記し整理して全職員が把握できるようにしている。服薬時は、職員が薬を手渡し、服薬できているか確認している。また、薬局から来た薬の説明書を読み、従来の薬と変化がないか確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から、ふんだんに野菜等の植物繊維が摂れる食事作り心がけると共に、毎日便秘体操等の体操を行ったり、散歩等で身体を動かし自然な排便を促している。また、体質等で便秘がちな方には、医師の指示のもと処方された下剤等の薬を使用してもらっている。その場合は、その方の適量をつかみ、快適な排便になるよう気を付けている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は歯磨きをしてもらうよう声かけをしている。特に夕食後は、各々の力に応じて職員が見守ったり介助を行なっている。また、当ホームの連携医療機関の歯科医師や歯科衛生士が月1回ホームに来訪し口腔ケアを実施してくださっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日毎食毎に記録し、全職員が利用者の摂取状況を把握している。食べれる量についても、個々の適量を把握し配膳に気を付けている。		

岐阜県. グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホーム内の感染を避けるため、玄関に消毒液を置き来訪者にも感染予防に協力してもらっている。また、利用者や職員は外出から戻った時は手洗いや場合によってはうがいをしている。職員は利用者の身体へのケアをする時はプラスチック製の手袋をするようにしている。インフルエンザ対策では、家族に同意を得て、毎年職員も含めて予防接種を受けている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した調理器具や食器等は、必ず食器洗浄器で熱湯洗浄し、清潔に心がけている。食材の野菜等は近くの農園から新鮮な物を取寄せ使用している。また、肉類等は賞味期限に気をつけ、早めに使い切るように気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	新ホームでは、敷地が手狭で、立地条件が必然的に地面から高い位置に建てなければならず、玄関の入口は階段仕様となってしまったが、手すりや目の見えない方のための点字や車椅子専用のリフトを取付ける等、少しでも人にやさしい建物になるよう心がけた。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が居る居間の隣に台所があり、ご飯の炊ける匂いや料理の音がすぐに伝わる位置である。また、トイレも居間に近く室内が広く、水洗トイレなので清潔に使ってもらえる様式になっている。建物が新築なので真新しく気持ちよく生活してもらっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物が手狭なので玄関ホールや階段の踊り場に椅子やソファを置く等の空間作りは出来ないが、各々の居室が比較的居間に近く、1人になりたい時は自室へ行きやすい環境である。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホーム陽だまり

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

陽だまり開所当初より利用されてみえる利用者の方は、今年4月で8年目のご利用であり、年齢が70代半ばであっても今は80代半ばになりつつあるご年齢です。ご利用者の入居年数が長くなるにつれ足腰も弱くなり、以前の建物では全面的なバリアフリー化は難しく、やむなく昨年12月に現在の場所にバリアフリーに対応したホームを新築し、9名のご利用者様とスタッフ全員で移転してきました。以前の建物の周りは自然が多くとても良い環境でしたが、現在の建物も理事長の自宅横であり、以前から住民と付き合いがあるためスムーズに受入れていただくことができました。また、住宅地の中にあり、近くには自然も多く、日々の散歩も楽しく出来る環境にあります。管理者が10月に代わったり、ホームの立地環境も変わる等、それに合うケアの方法も多少の変化はありますが、従来の培ったやり方を基に、引き続きご利用者様のために良いケアを目指して取り組んでいきたいと思っております。